

令和8年7月14日
横浜市市民文化
遠野市市民文化課

「こども本の森 遠野」運営状況について」



こども本の森 遠野
Tono Children's Book Forest

【コンセプト】 みんなで育てる「本の森」風通しの良い開かれた空間をイメージしています。
【キーワード】 森・木・本・種・土・耕す・みんなで育てる・集まる・遠野の自然・心地よさ・共生

岩手県遠野市市民文化部文化課



- ・世界的建築家の安藤忠雄氏が、古民家(呉服屋 三田屋)を活用し設計して、寄附してくださったもの。
- ・こども本の森は全国に5つある。大阪中之島(2020)、遠野(2021)、神戸(2022)、熊本(2024)、松山(2025)の5つ。

こども本の森 遠野 原点...

◆桃柿育英会東日本大震災遺児育英資金HPより抜粋

桃・柿育英会のはじまり

[発起人]

もぎもぎ

- 小澤 征爾 指揮者
 小柴 昌俊 物理学者 公益財団法人平成基礎科学財団理事長
 東京大学特別荣誉教授（2002年ノーベル物理学賞受賞）
 野依 良治 科学者 独立行政法人理化学研究所理事長 名古屋大学特別教授
 （2001年ノーベル化学賞受賞）
 佐治 信忠 サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長
 柳井 正 株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長
 福武 總一郎 株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長
 貝原 俊民 元兵庫県知事 （財）ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
 安藤 忠雄 建築家 （桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金 実行委員長）

桃・柿育英会東日本大震災遺児育英資金 趣意書

2011年3月11日、東北地方を襲った、大地震、大津波、そして原発事故は、私たちの想像をはるかにこえた大災害をもたらし、多くの人々の尊い命を奪い、故郷を、そして家族の歴史、職業までも一瞬にして奪い去りました。

両親や兄弟姉妹たち、祖父母を突然失った、多くの孤児や遺児たちは、今も被災地の避難所などで、心細い思いに耐え、必死で生きています。

16年前、1995年1月17日、阪神・淡路大震災を経験した私たちは、"桃・柿育英会"を有志の皆様と立ち上げ、10年間は、遺児たちの成長を見守り、教育を受け学ぶ意欲を支えていきたいと思いました。

多くの企業や個人の方々からの募金を10年間続け、4億9千万円を超える金額を集め、兵庫県教育委員会を通して、育英資金として遺児たちに分配しました。遺児たちはそれぞれ学びを続け、今や立派な 社会人に成長した人も大勢います。

この度の大震災では、更に多くの孤児や遺児を生みだす結果となってしまいました。

彼らを支援し、励ます資金を集めるべく、再び「桃・柿育英会」を立ち上げました。

被災地で力強く生きようとする孤児や遺児を共に支えるこの育英会発足に お力を貸して頂きますよう、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

被災3県への分配状況

10年間で **総額52億円**の寄附金
 【内訳】 岩手県 約17億円 ☆
 宮城県 約30億円
 福島県 約 5億円



令和2年7月30日終了

区分	基金名称	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	計
		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	
岩手県	いわての学び希望基金	364,072,421	191,264,718	249,703,588	182,135,817	142,475,719	133,316,416	125,859,113	106,262,011	99,691,670	113,477,580	1,708,259,053
宮城県	東日本大震災みやぎこども育英基金	536,191,017	321,657,361	457,789,911	330,786,184	258,802,379	243,308,177	230,345,923	194,479,529	187,242,503	214,887,219	2,975,490,203
福島県	東日本大震災ふくしまこども寄附金	102,375,373	54,219,390	78,032,371	56,330,665	47,410,445	45,277,274	42,960,486	36,271,252	34,541,539	39,318,132	536,736,927
計		1,002,638,811	567,141,469	785,525,870	569,252,666	448,688,543	421,901,867	399,165,522	337,012,792	321,475,712	367,682,931	5,220,486,183

こども本の森構想推進事業 概念

コンセプト

本とふるさと
未来へつなぐ 文化復興拠点

『遠野物語』を生んだ”永遠の日本のふるさと”遠野。沿岸部のハブとなり震災復興の拠点となったこの地で、脈々と伝承されてきた古きよき文化を土台として、未来をつくる子どもたちのために、“本”を中心とした、新たな復興のシンボルをつくる。

世界的建築家 安藤忠雄氏の想い ～なぜ？ 遠野に本の森？～

東日本大震災の後10年間、安藤忠雄氏は同志に声をかけ共に発起人となり、東北3県に育英資金を寄せてきた

「東北復興のシンボルは 子どもたちの未来である」

子どもたちの未来のためには 本・読書が大事ではないか。

日本文化の原点でもあり『遠野物語』が今もなお息づいている遠野の郷に子どもたちがしっかりと本を読む場をつくりたい

遠野には古民家もある 外観を残しながら
子ども向けの本の施設にしてみるのはいかがでしょうか



人口減少をただ仕方ないと思うのではなく みんなで考えて 挑戦してみませんか

遠野市の想い

一日市通りから遠野小学校周辺までをこども達が安心して、**想像力と創造力を育む居場所**として位置付けたい

世界的建築家 安藤忠雄氏の子どもに対する夢、希望、本の森への想いを強く感じ、それらのすべての**想いを形**にする

『遠野物語』110年の年に**遠野から世界に文化を発信**したい

決して、遠野だけの施設ではなく、**沿岸被災地との文化のネットワーク**を作る拠点

30年、50年後を思い描きながら将来を見据えて**子どもたちの夢と希望**に向かっていくしくみづくり

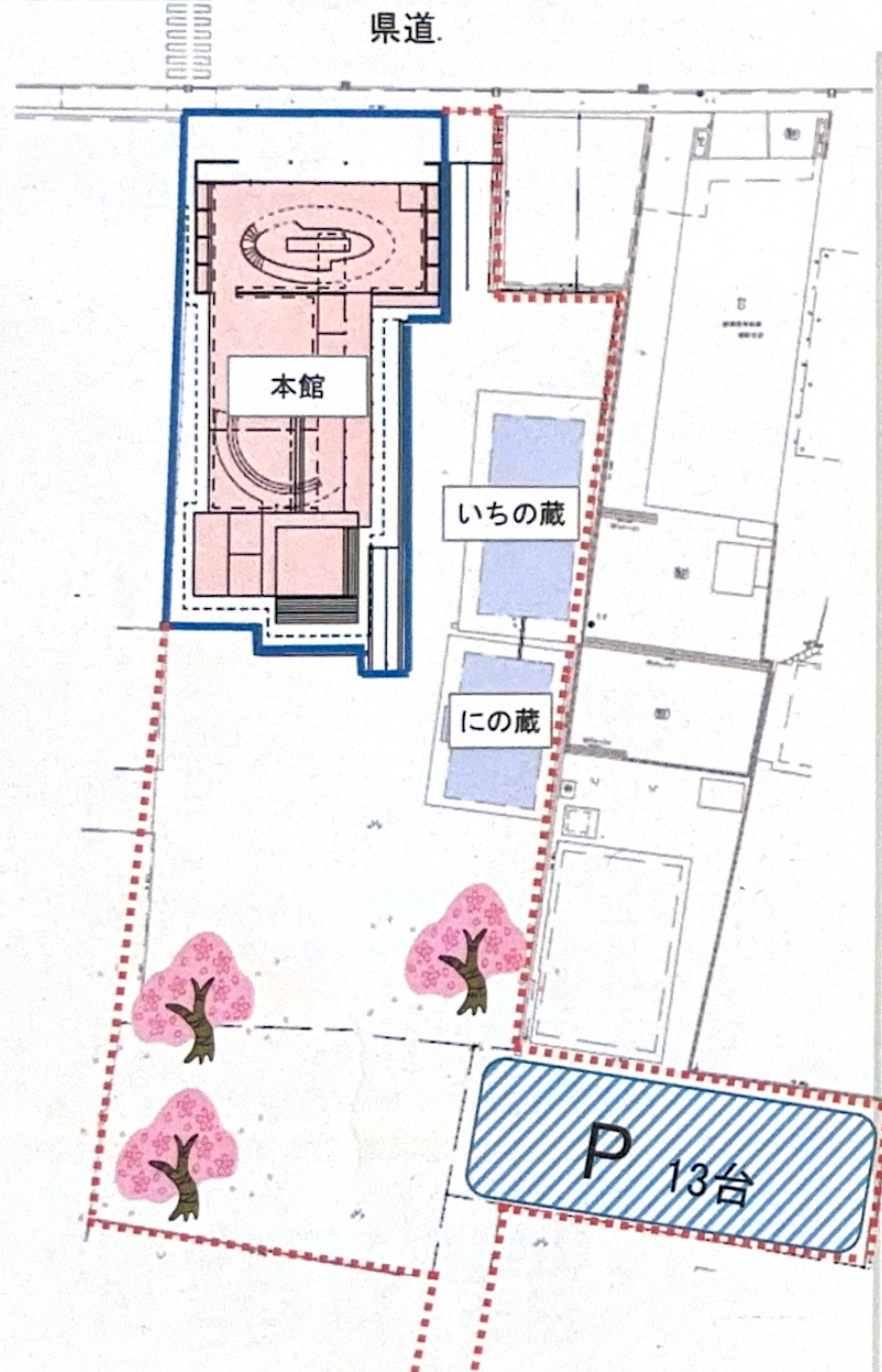
子どもを地域で大切に育てることによって、その土地への「**愛着心**」が**育まれる**ことを期待している

人類社会、農耕、工業、情報の様々な社会、時代を経てきた現代
今や、**IT・AIの超スマート社会**の到来

ICTを活用した確かな**学力の育成**と併せて**豊かな心**(想像力と創造力)を育む所として、「こども本の森構想」を位置付ける

こども本の森遠野施設概要

工事概要



所在地 遠野市中央通り1番16号
土地面積 2,651.98 m²

【本館概要】

構造 木造地上2階建て
床面積 1階 409.05m²
2階 89.05m²

【土蔵】

いちの蔵 (全面改修)

1階 76.61m²

2階 32.83m²

通常は開放、イベントや
地域活動等に活用

にの蔵

1階 54.72m²

2階 54.72m²

収蔵庫として活用



本館正面外観



いちの蔵

施設内観



閲覧室A



閲覧室B



地域活動室



授乳室



バリアフリースイレ

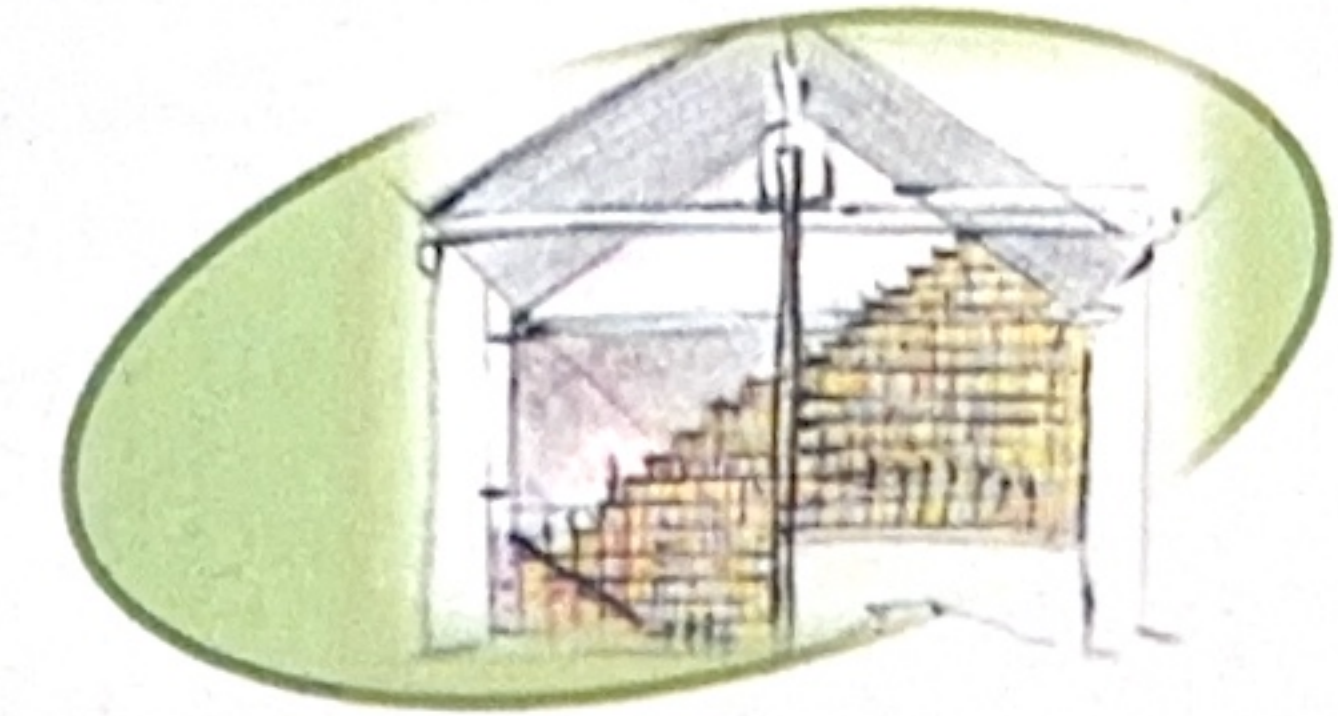


閲覧室C

施設の運営体制 について

遠野市
(担当 文化課)

指定管理



(一財)遠野市教育文化振興財団 (職員 常時2～3名)

①生涯学習講座等運営支援(指定管理)

- ・来館者の受付
- ・施設内の案内
- ・施設内の状況確認及び整理整頓
- ・グッズ販売
- ・生涯学習講座の企画・開催
- ・HP、SNS、広報紙、CATV等による情報発信

②子育て支援拠点事業(業務委託)

こども本の森構想推進事業 経過

平成31年

1月 市へ遠野文化研究センター赤坂所長、西舘顧問から「こども向け本の施設」について提案

令和元年

6月 遠野文化研究センター運営委員会内に「検討チーム」設置
7月 安藤忠雄建築研究所を市長訪問
安藤忠雄氏から遠野市に「こども向け本の施設」を寄贈したいとの申出
8月 安藤忠雄氏講演会 at 遠野市 開催
演題「遠野市から地方都市の可能性を考える」 約600名の参加
10月 検討チームが市長にプロジェクトの「コンセプト・シート」を提出
11月 こども本の森構想推進準備室設置

令和2年

1月10日 第1回懇談会及びワーキンググループ合同会議
1月23日 第2回ワーキンググループ会議開催
3月17日 第3回ワーキンググループ会議開催
3月25日 第4回ワーキンググループ会議開催
5月13～22日 第2回懇談会及び第5回ワーキンググループ会議(書面)
7月10日 第3回懇談会及び第6回ワーキンググループ合同会議開催
7月14日 こども本の森中之島視察(市長 他)
7月31日 第7回ワーキンググループ会議開催
8月7日 安藤忠雄建築研究所と遠野市が施設の寄附に係る「覚書」締結
8月24日 第8回ワーキンググループ会議開催
9月17日 市議会9月定例会「負担付きの寄附を受けることについて」議決
9月26日 旧三田屋引越し作業及びありがとうの会 50名
9月29日 記者懇談会「こども本の森構想推進事業」単独発表
9月30日 岩手日報全面広告
10月1日 広報とおの10月号特集

10月1日～ 本と寄附の募集開始

10月8日 旧三田屋解体前の神事 / 10月10日 着工
10月22～23日「こども本の森 中之島」視察ワーキンググループ6名
11月16日 「こども本の森 遠野」起工式
11月16日 第9回ワーキンググループ会議
12月11日 市議会12月定例会「遠野市こども本の森遠野条例」議決

令和3年

1月1日 こども本の森拠点整備室設置
1月10日 朝日新聞全国版に掲載
1月22日 市議会教育民生常任委員会とワーキンググループとの懇談会
1月29日 記者懇談会「本と寄附の募集状況について」
2月13日 ワーキンググループ広報チーム「こども本の森 遠野を語る会」
2月19日 「こども本の森 遠野」運営に関する確認書取り交わし及び記者懇談会
3月12日 市議会3月定例会令和3年度当初予算議決
3月18日 第4回懇談会
3月20日 ワーキンググループ広報企画チーム「第2回こども本の森 遠野を語る会」
4月1日 「こども本の森 遠野」オールスタッフミーティング
4月3日 上棟セレモニー
4月27日 ワーキンググループ広報企画チーム「第3回こども本の森 遠野を語る会」
5月11日 市議会教育民生常任委員会とワーキンググループ等との懇談
6月15日 安藤忠雄建築研究所からの寄附採納式・建物引き渡し
6月18日 市議会6月定例会令和3年度補正予算議決
7月24日 岩手日報全面広告
7月24日 こども本の森遠野を育てる会発足 会員70名・内覧会120名
7月25日 こども本の森運営企画室設置
★ 7月25日 こども本の森遠野オープニングセレモニー 来場300人
11月20日 こども本の森遠野オープン記念安藤忠雄氏講演会開催

こども本の森遠野イベント企画

令和6年度

令和6年度 講座・イベント計画

対象	講座・イベント	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
こども (親子)	シリーズ企画 「みんなで育てる本の森」 本の森を楽しむ参加型企画				こども スタッフ 養成講座								
	「本がもっと好きになる」 絵本+α 絵本の世界を体験			オリジナル キャラクター をつくろう 6/1(土)		宇宙のお話 8/4(日)		音楽会	くどうれいん さん		タラシガネ		
未就学 児親子	「特別保育」	子育て おしゃべり会 4/28(日)	シャボン玉で あそぼう 5/19(日)	こどもの森 6/22(土)	ミニシアター やまゆり 7/28(日)	夏あそび 8/25(日)	おまつりごっこ 9/22(日)	音楽会 mini	エコバッグを つくろう 11/24(日)	クリスマス パーティー 12/22(日)	まめまきごっこ 1/26(日)	ひなまつり 2/23(日)	ミニシアター おはなし ころりん 3/
	テーマ	育児を楽しむ	自然であそぼう	絵本の世界を 楽しむ		季節の行事を たのしもう			絵本の世界を 体験しよう	季節の行事を 楽しもう			
大人	夜に集う本の森				本箱作り ワーク ショップ 7/19(土)								
すべて	ギャラリー展示 ※「」内はテーマ	学校	こどもの あそび	菅野まいこ さんの キャラクター 構想	バリオリン ピック・ パラリンピッ ク	なつやすみ 水あそび 8/8~9/15 (姉妹都市姉妹市関係) 世界	お祭り	食欲の秋	まんが 特集	クリスマス	文房具	ひなまつり	昔話

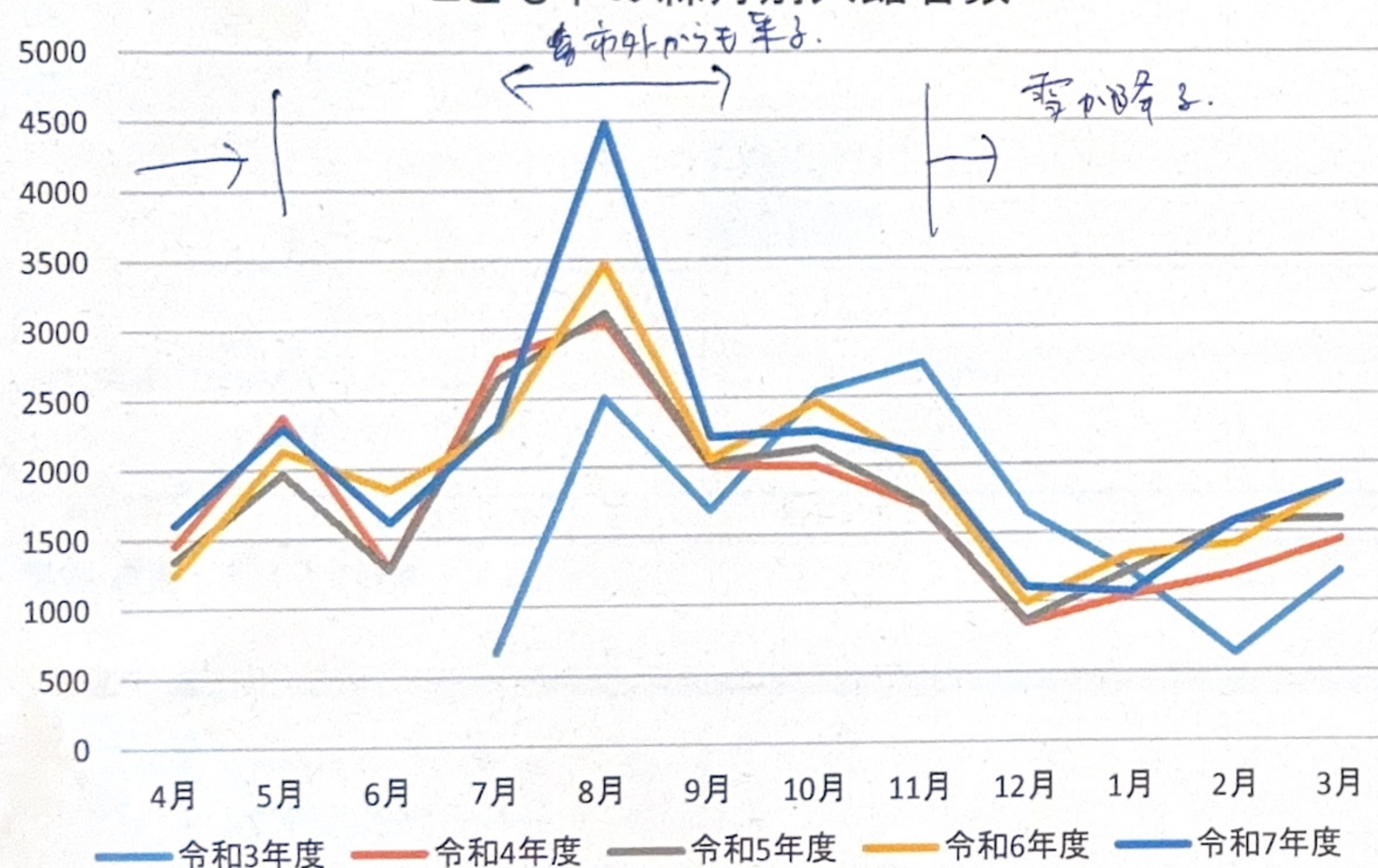
子ども27-7 8/24 10/1

こども本の森遠野利用状況

こども本の森 遠野 来館者数（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
令和3年度					668	2,499	1,681	2,529	2,738	1,651	1,211	621	1,207	14,805
令和4年度	1,456	2,376	1,281	2,790	3,051	2,006	1,997	1,698	849	1,045	1,199	1,442	21,190	
令和5年度	1,343	1,966	1,273	2,643	3,112	2,028	2,126	1,714	868	1,225	1,585	1,589	21,472	
令和6年度	1,242	2,135	1,852	2,290	3,471	2,057	2,462	1,997	996	1,340	1,416	1,847	23,105	
令和7年度	1,608	2,300	1,615	2,323	4,482	2,213	2,252	2,074	1,106	1,068	1,579	1,845	24,465	
														105,037

こども本の森月別入館者数





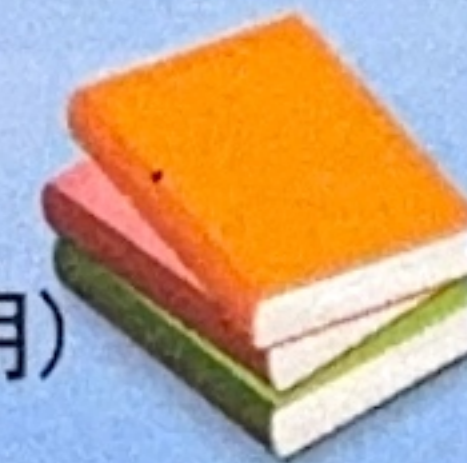
本の寄贈・配架・運営資金の寄附募集

本の寄贈状況

計18,420冊寄贈→選書により配架→市内小中学校、教育保育施設、児童館、児童クラブ等2,942冊活用→市民活用577冊→循環4,469冊

★蔵書 13,000冊

- ・全国から寄贈分 10,432冊
- ・市が購入 2,568冊(岩手県補助金を活用)



「象と花プロジェクト」

- ・盛岡市の書店と金融機関が連携
- ・古い本を回収し販売→本の森運営資金に寄附

本の配架 大テーマ14

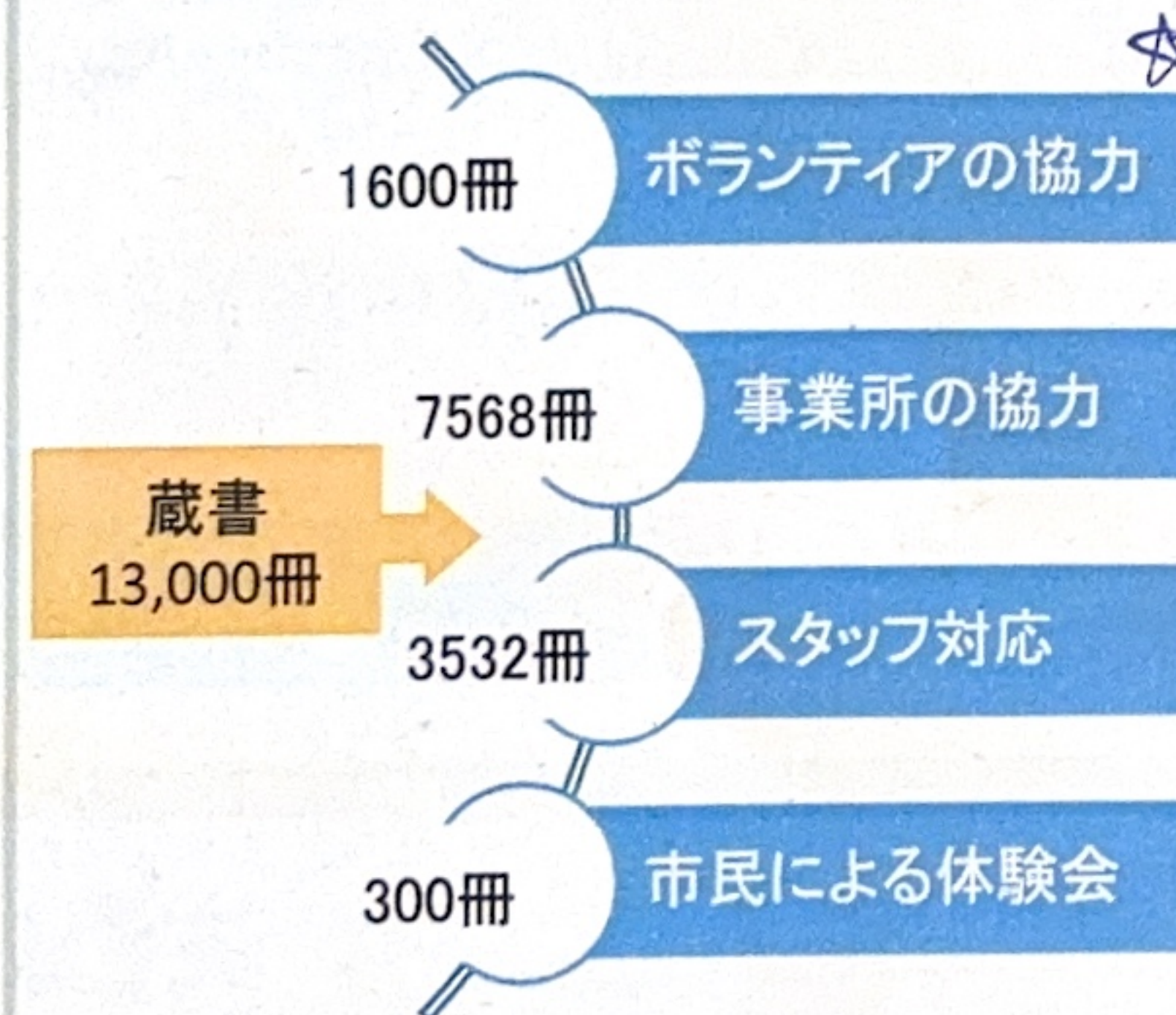
- 0 あの人の本棚
- 1 遠野と東北…
- 2 自然とあそぼう…
- 3 体を動かす…
- 4 動物が好きな人へ…
- 5 まいにち…
- 6 食べる…
- 7 世界を見渡す…
- 8 きれいなもの…
- 9 ものがたりと言葉…
- 10 未来はどうなる?…
- 11 将来を考える…
- 12 生きること/死ぬこと…
- 13 こどもの近くにいる人へ…

中テーマ 93

小テーマ 803

ブックコーティング作業

寄贈図書、購入図書すべてにブックカバーをコーティングしています。



市民みんなで本の森を育てるために



寄附募集

個人寄附	110件	21,291,200円
法人寄附	85件	15,749,128円
ふるさと納税	4,986件	58,265,925円(経費除く)
企業版ふるさと納税	1件	1,000,000円
計	5,182件	96,306,253円

(R7.3.31現在)

こども本の森遠野を育てる会

語る会を進化したカタチ

令和3年7月24日 発足

- 1 ワーキンググループメンバー4人が中心
- 2 これまで3回開催した「語る会」においてサポーターとして参画していただける方等 会員 72人⇒111人

ブックカバーコーティング体験会



活動状況

- 1 「こども本の森遠野を育てる会」会報の発行
こども本の森遠野の様子等についてお知らせ
R7年2月現在 45回送付
- 2 育てる会運営委員会の開催
年2回開催(令和7年度)

「こども本の森遠野を育てる会」の会則について

- 1 この会は「こども本の森遠野」(以下、本の森)が、子どもたちの心を耕す施設になるよう支援する会である。
- 2 そのための集まりを1年に4回程度行い、自由に意見を言い、アイデアを出し合う。
- 3 集まりには遠野市の担当者にも参加してもらい、そこで出た意見や要望を本の森の運営に反映してもらう。
- 4 支援をする意志のある人や事業所であれば、だれでも会員とすることができる。
- 5 会費はなく、経費がかかる場合はその都度協議し捻出方法を考える。
- 6 会の運営をスムーズにするため、運営委員会を設け代表を1人置く。
- 7 事務局を本の森の遠野市担当課に置いてもらう。
(連絡先 0198-63-3003)
- 8 この会は、本の森の運営などについて遠野市からの協力要請があれば、最大限協力する。

令和3年7月24日設立

こども本の森遠野を育てる会

こども本の森遠野 3周年記念イベント



近隣商店街の各店舗では、「3周年おめでとう」のガーランドを掲出したり、絵本を飾ったりして3周年を祝ってくれました。



子ども主役の茶会。子どもたちの笑顔とおいしいお茶に癒されました。

3周年おめでとう期間
7月28日(日)～8月4日(日)



おめでとう期間中は、近隣の各商店街と公共施設をまわるスタンプラリーでまちなかを回遊。



未就学児親子向けのイベントや小学生向けのイベントも好評でした。



こども本の森遠野を育てる会のメンバーの方が考えてくれた「こども本の森遠野節」のお披露目会を開催。歌詞に遠野の素晴らしい暮らしぶりや景色を盛り込んだ「本の森」と「遠野市」の応援歌で、この日までに37番まで完成。大正琴と合唱団の皆さんが心地よい響きで披露してくれました。

安藤忠雄さんからのメッセージ

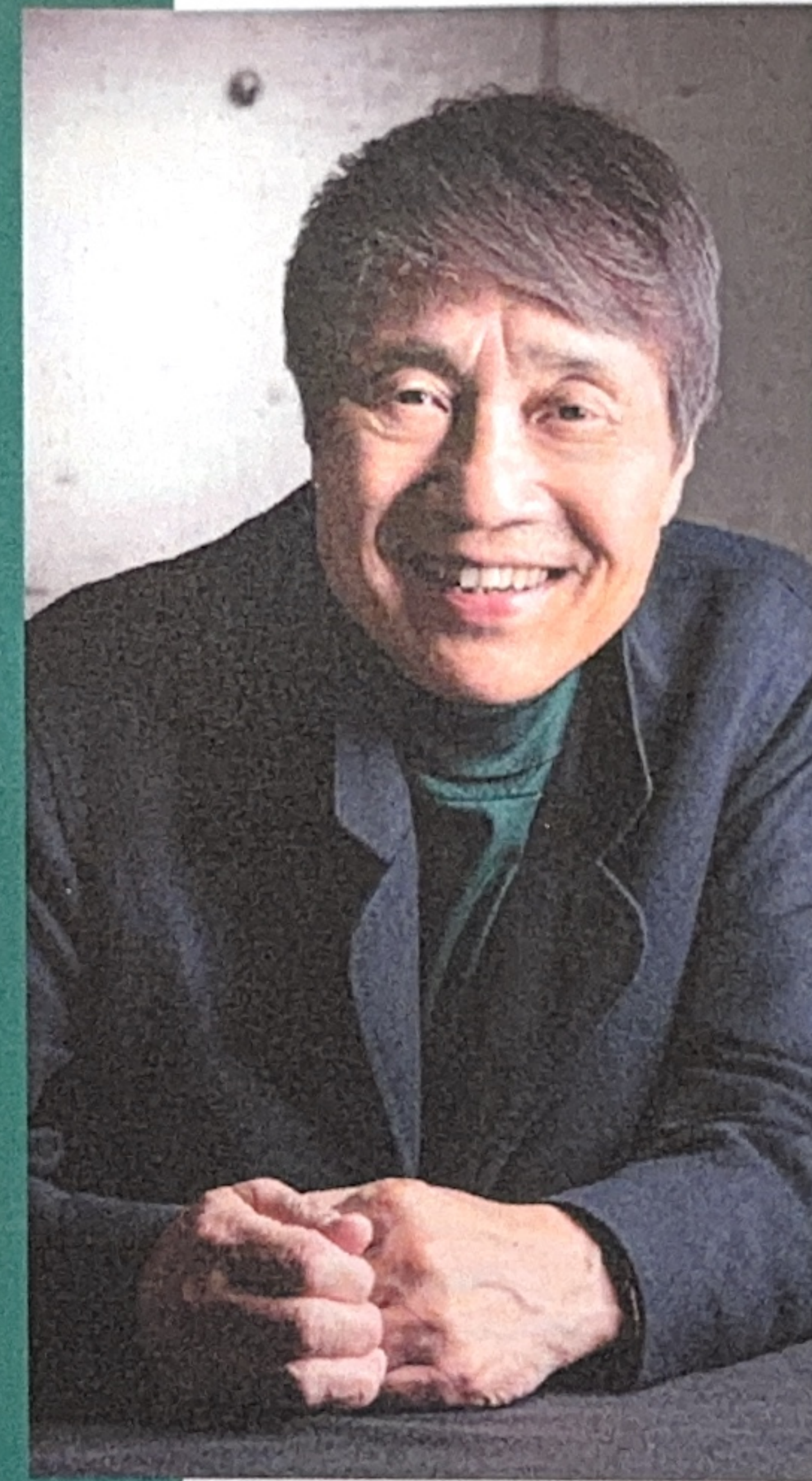
● Special Message

2周年、おめでとうございます。
「こども本の森 遠野」に
集う子どもたちがすくすく
成長し、文学の聖地 遠野
から、世界に羽ばたいて
くくれることを期待しています。
100年かかっても、日本を
立て直してもらいたいと思
います。



23/07/2023 安藤 忠雄
Tadao Ando

ようこそ
こども本の森 遠野



世界的建築家
安藤 忠雄さん

あんどう ただお
Ando Tadao

● Profile プロフィール

昭和16(1941)年大阪生まれ。17歳でプロボクサーとして活動したのち、独学で建築を学び、昭和44(1969)年「安藤忠雄建築研究所」を設立。代表作に「光の教会」「フォートワース現代美術館」「プンタ・デラ・ドガーナ」など。平成9(1997)年から東京大学教授、現・名誉教授。平成12(2000)年、瀬戸内海の破壊された自然を回復するための植樹活動「瀬戸内オリーブ基金」を設立。平成23(2011)年「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」実行委員長。

昭和54(1979)年「住吉の長屋」で日本建築学会賞、平成7(1995)年「ブリッサー」賞、平成17(2005)年「国際建築家連合会(IUA)ゴールドメダル」、平成22(2010)年「文化勲章」、令和3(2021)年「レジオン・ドヌール勲章コマンドール」など受賞多数。